

ドイツの社会保障研究の今日—医療

保 坂 哲 哉

はじめに

与えられた課題は、ドイツにおける保健サービス (Gesundheitswesen) に関する研究であるが、対象を政策分野でのそれにほぼ限定して、以下可能なかぎり最新の文献に依拠して概観を試みる。ドイツ保健サービス・システムのかかえる政策課題の大部分は、他の先進諸国と共通する。最近の OECD その他の比較研究はそのような各国保健ケア・システムの共通課題を分析・指摘しているが、ほとんど経済・財政問題に集中している。したがって以下においてもそういう分野を中心とし、それに他の側面を扱った若干の社会政策学者や社会学者の研究への言及を加えて補うことにする。参考文献の掲載は以下にとりあげる文献に掲載されたものとの重複を極力避け最小限にとどめる。

1. 保健問題研究のテーマ—若干の事例—

かなり最新の文献として、日本を含む12カ国を対象とする National Economic Research Associates (NERA) の1994年刊行の2巻本¹⁾があり、そのドイツを扱った第6章が文献を含んで参考になる。そこでは保健政策問題の論点として2点があげられている。一部の人々による

疾病金庫選択権がリスク選択の余地を与えているが、それが金庫間での保険料格差につながっていること、およびプライマリー・ケア部門と病院 (二次) ケア部門間の調整・統合の欠如、である。過去十数年間に行われた疾病保険改革はほとんど医療費抑制をめざしていた。最近年の1993年保健構造改革法もそうであった。

1976年の費用抑制法は、「協調行動」と称する医療費のグローバルな抑制を目指す連邦レベルの「道義的勧告」機構を創りだした。この組織は現在25団体・機関の代表約90人によって構成される。また別に専門家委員会 (ZVR) をもち、それが毎年報告書を発表していて、政策論議にはよく引用される²⁾。1988年の保健改革法は、強力な保健需要抑制を患者自己負担の拡大によって行おうとした。この時期を中心とした日本における研究文献としては土田武史のものがある³⁾。保健ケア機会の平等化をめざし、予防ケアやリハビリテーションを重視する G. Bäcker らによるドイツ社会政策のテキスト・ブック⁴⁾ は1988年改革法の批判的検討を含んだ書物である。

ところで1993年法を必要とした事情については、上記 NERA 文献が参考になる。主要論点のひとつを ZVR 委員 D. Zöllner は、つぎに述べる「保険料率安定」原則との関係でとりあげ、この原則を維持しながら医療サービスへの影響波及を避けることが可能なことを経験的に示

し、「中立的」雑誌 *Sozialer Fortschritt* に発表した⁵⁾。同誌は「疾病保険における保険料率の安定性」をテーマに1992年1月に開かれたフォーラムの発表と討論を掲載した。「保険料率の安定性」とは、「協調行動」が保健支出の総枠規制のガイドラインとして採用した原則であり、保険料率算定基礎賃金の上昇率の枠内に総支出を押しさえ込むことを意味する。ZVR 委員長 M. Arnold の論文⁶⁾、ドイツ使用者団体連邦連合会 V. Hansen とドイツ労働組合同盟 (DGB) の社会政策学者 E. Standfest の各意見も掲載された。同年9月の同誌には、アウグスブルク大学と国際経験的社会経済研究所 (INIFES) 所員による、1992年改革案の被保険者への影響に関する研究が発表された。旧西ドイツ域内のデータを使ったマイクロ・シミュレーション分析で患者自己負担増の効果を計測し、年金受給者へのしわ寄せが大きいこと指摘し、軽減措置対象者の範囲拡大を提案した⁷⁾。

1993年法の主要改革点として U. Hoffmeyer があげているのは、疾病金庫選択権を大部分の金庫と被保険者に拡大し、グローバルなリスク調整メカニズムを創ること、病院医療費支払いに予測件数払い方式を採用し経済性を求めること、開業医、病院を含む支出上限を向こう3カ年について設定すること、開業医の処方薬剤に総括予算枠を設定すること、である。そして NERA としての短・長期の勧告が11項目にわたって示されているが、それらは保健ケアの需給両サイドにおける競争性の向上手段の採用、と要約できる¹⁾。医療経済学的研究の志向は競争市場の要素を可能なかぎり導入することに向けられているが、現実には何を競争する結果になっているのか、なるのか、についての研究は欠けている。日本における最新の文献には高智英

太郎のもの⁸⁾があり、1994年上半期の実績をふくむ。

医療費抑制に関してのもうひとつの研究課題は、医学・医療技術の経済的評価の問題である。アウグスブルク大学の M. Pfaff と F. Nagel らの発表は上掲誌の同年4/5月号に掲載された⁹⁾。ZVR の1987年次報告¹⁰⁾がとりあげたテーマでもある。

1976年、すなわち「協調行動」が創設された年に設立された地区疾病金庫研究所 (WIdO) の初代所長 Ulrich Geißler の追悼論文集¹¹⁾には、ドイツ内外の35人の保健問題の著名な研究者が寄稿した。この書物は、*Soziologie und Sozialpolitik* 叢書の第4巻として刊行された。「要介護性—新しい保険リスクか？」の筆者 Ch. von Ferber は、当時デュッセルドルフ大学 Institut für Medizinische Soziologie の所長であった。後任 WIdO 所長に就任した Dieter Paffrath も執筆した。なお、このシリーズには保健関係のテーマを扱ったものが多い。第7巻にはハンブルク大学 Institut für Medizinsoziologie の Alf Trojan の嗜癮問題自助グループに関する共同寄稿がある (1987年刊)。

2. 研究機関等

これまで大学関係の研究機関を3つ挙げたが、もちろんごく一部にすぎない。しかしそれをおぎなうことはやめ、大学以外の研究機関を2つ追加しておこう。1つは連邦・ラント金庫医協会設立の Zentralinstitut für die kassenärztliche Versorgung in der Bundesrepublik Deutschland で、1972年からはじまる *Wissenschaftliche Reihe* のなかに社会科学関係のものが多く含まれている。委託研究が主のようで

もあり、このシリーズに注目すればよからう。第2は、上記のG. Bäckerが所属するWirtschafts- und Sozialwissenschaftliches Institut des DGB (WSI)であり、定期刊行物のほか、WSI-Studie, WSI-Arbeitspapierなどのかたちでも刊行物が出されている。

最後に古い歴史をもつ学会の活動と出版物にふれておく。叢書Schriften des Vereins für Socialpolitikを年に数冊も刊行するGesellschaft für Wirtschafts- und Sozialwissenschaftenは専門委員会を含む学会年次大会を開いて、テーマをきめて討議の場を提供している。医療経済学者として著作の多いK. D. Henkeの論文所載の比較的新しいものをひとつあげておく¹¹⁾。

〈本文でふれた文献〉

- 1) Hoffmeyer, Ullrich K. 1994 "The Health Care System in Germany" in Hoffmeyer, Ullrich K. and McCathy, Thomas R. (eds.) *Financing Health Care* Vol. I, Kluwer Academic Publishers.
- 2) Sachverständigenrat für die Konzertierte Aktion im Gesundheitswesen 1987
Jahresgutachten 1987, Medizinische und ökonomische Orientierung, Nomos Verlagsgesellschaft.
Sachverständigenrat für die Konzertierte Aktion im Gesundheitswesen 1989
Jahresgutachten 1989, Qualität, Wirtschaftlichkeit und Perspektiven der Gesundheitsversorgung, Nomos Verlagsgesellschaft.
Sachverständigenrat für die Konzertierte Aktion im Gesundheitswesen 1991
Jahresgutachten 1991, Das Gesundheitswesen im vereinigten Deutschland, Nomos Verlagsgesellschaft.
Sachverständigenrat für die Konzertierte Aktion im Gesundheitswesen 1991

Sondergutachten 1991, Stabilität ohne Stagnation? mimeo.

Sachverständigenrat für die Konzertierte Aktion im Gesundheitswesen 1992

Jahresgutachten 1992, Ausbau in Deutschland und Aufbruch in Europa, Nomos Verlagsgesellschaft.

- 3) 土田武史 1989 「西ドイツの医療保険改革とその影響」『欧米諸国における医療費のコントロール及び制度の効率化に関する研究』全国社会保険協会連合会
- 4) Bäcker, Gerhard, Bispinck, Reinhard, Hofemann, Naegele, Gerhard 1989 *Sozialpolitik und soziale Lage in der Bundesrepublik Deutschland* Bd. II. Bund-Verlag.
- 5) Zöllner, Detlev 1992 "Beitragsstabilität: Eignung, Bedingungen und künftige Entwicklung" *Sozialer Fortschritt*, 41. Jg. H. 3.
- 6) Arnold, Michael 1992 "Beitragsstabilität in der gesetzlichen Krankenversicherung" *Sozialer Fortschritt*, 41. Jg. H. 3.
- 7) Pfaff, Anita B., Busch, Susanne, Rindsfüßer, Christian 1992 "Die Reform der Gesundheitsreform: Auswirkungen auf die Versicherten" *Sozialer Fortschritt* 41. Jg. H. 9.
- 8) 高智英太郎 1994 「ドイツの医療保障制度改革—『構造改革』による21世紀への対応—」『海外社会保障情報』No. 109
- 9) Pfaff, M., Nagel, F. 1992 "Probleme und Ansatzpunkte für eine ökonomische Bewertung der Medizintechnologie" *Sozialer Fortschritt*, 41. Jg. H. 5/6.
- 10) Ferber, Christian von, Reinhardt, Uwe E., Schaefer, Hans, Thiemeyer, Theo, Wissenschaftliches Institut der Ortskrankenkassen (WIdO)(Hrsg.) 1985 *Kosten und Effizienz im Gesundheitswesen. Denkschrift für Ulrich Geißler*, R. Ordenbourg Verlag.
- 11) Henke, Klaus-Dirk 1991 "Alternativen zur Weiterentwicklung der Sicherung im Krankheitsfall" in Brümmerhoff, D., Henke, D.

K., Ulrich, V., Wille, E. (Hrsg.) *Finanzierungsprobleme der sozialen Sicherung II*, Duncker & Humblot.

〈定期刊行物—毎年〉

1. Der Bundesminister für Gesundheit *Daten des Gesundheitswesens*, Nomos Verlagsgesellschaft.
2. Deppe, Hans-Ulrich, Gerhardt, Uta, Novak, Peter (Hrsg.) *Jahrbuch Medizinische Soziologie*, Campus Verlag (seit 1981).
3. Statistisches Bundesamt Fachserie 12:

Gesundheitswesen, Verlag W. Kohlhammer
〈定期刊行物—雑誌〉

1. *Arbeit und Sozialpolitik*
2. *Bundesarbeitsblatt*
3. *Die Krankenversicherung*
4. *Die Ortskrankenkasse*
5. *Mensch-Medizin-Gesellschaft*
6. *Soziale Sicherheit*
7. *WSI-Mitteilungen*

(ほさか・てつや 上智大学教授)